

タイの障害児のモビリティと QOL 改善に向けて

——継続的支援における課題——

熊澤 友紀子 寺田 恭子

Improving Mobility and Quality of Life (QOL) for Children with Disabilities in Thailand
—Challenges in Continuous Support—

Yukiko KUMAZAWA and Kyoko TERADA

1. はじめに

社会開発に取り組む非営利組織（NPO）にとって、プロジェクトによってもたらされるインパクト（変化）を測定し評価することは重要である。評価することによって活動内容を改善し、理事会や資金提供者への説明責任を果たし、継続的支援や資金調達につなげるために不可欠だからである^[1]。しかし、保健や教育といった人間を中心とした社会開発の分野でインパクトを評価するには多くの課題がある。健康であることや教育を受けることの意義は個人だけでなく個人が生活する地域共同体（community）にも及ぶため^[2]、起こった変化に対するプロジェクトの貢献度が測定しにくい場合もある^[2]。測定にはコストや手間ひまがかかり、さらに客観的な評価をするための専門家がいないと考える NPO もある^[3]。そのため、資金や人や時間など限られた資源の中での評価活動は後回しにされがちである。

認定 NPO 法人アジア車いす交流センター（WAFCA: Wheelchairs And Friendship Center of Asia）は、車いすの普及活動を通じてアジアの障がい児が社会で自立できる環境づくりを目指す NPO である。WAFCA は、障がい者スポーツ・特別支援教育の分野における支援・交流を通じてバリアフリー社会の実現に寄与することを目的として、東南アジアのタイ、インドネシア、中国雲南省で活動を展開している^[4]。近年では、障がい児とその家族の QOL（Quality of Life）^[5] 向上に向けて、WHO のガイドライン⁽¹⁾に沿った車いすフィッティングサービスの提供に力を注いでいる。

筆者は以前 WAFCA のタイ事務局（WAFCAT: Wheelchairs And Friendship Center of Asia, Thailand）で勤務し、タイの障がい児支援活動に携わった。現場で活動していると、車いすや奨学金によって通学できるようになった障がい児の成功事例を目の当たりにし、一定の成果が出ているという手ごたえを実感できる。しかし、プロジェクト全体として本当にインパクトを生み出せているのかを可視化することは常に課題であった。そこで、2021年に車いすサービスの提供を受けた障がい児を対象に彼らの生活の実態を調査し、現状を理解、把握して課題を

抽出する試みを行った⁶⁾。さらに本研究では、体に合った車いすを使い続けた結果として障がい児が健康になり、移動の自由を得て外出や余暇、就学や就労の機会が増加するという仮説のもと、彼らの約1年後の変化を調査した。その比較結果から今後の継続調査のあり方を再検討し、評価の目的と方法について考察する。

2. 調査方法

(1) アンケート調査

WHO-QOL100⁷⁾ から移動障がい及び子どもを対象にした関連ある内容を11項目40問抽出し、アンケート調査用紙を作成した。

表1 アンケート調査内容

項目	質問
1. Pain Control	1) Do you worry about your pain or discomfort? 2) How often do you suffer (physical) pain? 3) How difficult is it for you to handle any pain or discomfort? 4) To what extent do you feel that (physical) pain prevents you from doing what you need to do?
2. Self-Awareness	5) How positive do you feel about the future? 6) How much do you experience positive feelings in your life? 7) How often do you have negative feelings, such as blue mood, despair, anxiety, depression? 8) How much do you value yourself? 9) How much confidence do you have in yourself? 10) Is there any part of your appearance which makes you feel uncomfortable?
3. Daily Activity	11) To what extent do you have difficulties in performing your routine activities? 12) How satisfied are you with your ability to perform your daily living activities? 13) How much do you need any medication to function in your daily life? 14) How much do you need any medical treatment to function your daily life?
4. Medical/Social Service	15) How easily are you able to get good medical care? 16) How satisfied are you with your access to health services? 17) How satisfied are you with the social care services?
5. Environment	18) Do you feel you are living in a safe and secure environment? 19) How comfortable is the place where you live? 20) To what degree does the quality of your home meet your needs?
6. Finance	21) Do you have financial difficulties? 22) Have you enough money to meet your needs?
7. Mobility/Transportation	23) To what extent do you have problems with transport? 24) How well are you able to get around? 25) How much do difficulties with transport restrict your life? 26) How much do any difficulties in mobility bother you? 27) To what extent do any difficulties in movement affect your way of life? 28) How satisfied are you with your ability to move around? 29) To what extent do you have adequate means of transport?
8. Personal Relationship	30) Do you get the kind of support from others that you need? 31) To what extent can you count on your friends when you need them? 32) How satisfied are you with the support you get from your family? 33) How satisfied are you with your ability to provide for or support others?
9. Leisure	34) To what extent do you have the opportunities for leisure activities? 35) How much are you able to relax and enjoy yourself?
10. Information/Learning	36) To what extent do you have opportunities for acquiring the information that you feel you need? 37) How satisfied are you with your opportunities for acquiring new skills? 38) How satisfied are you with your opportunities to learn new information?
11. Work/Study**	39) Are you able to work/study? 40) How satisfied are you with your capacity to work/study?

**Work/Study includes voluntary work, studying full-time, taking care of the home, taking care of children, paid work or unpaid work. So work, as it is used here, means the activities you feel take up a major part of your time and energy.

(2) 調査対象

WAFCAT 事務局より2020年4月から2021年3月にタイ国内で車いすを受け取った障がい児109名を対象に2021年5月に調査を実施し、71名から回答を得た。(回答率65.1%) さらに、2022年5月、2021年5月に回答した71名に同様の調査票と実施方法を用いて再調査を行い、71名全員から回答を得た。(回答率100%)

(3) 回答者

対象者あるいは、対象者をよく知る保護者など。

(4) アンケートの実施方法

WAFCAT 事務局により英語をタイ語に翻訳、Google フォームでアンケート調査票を作成し、タイ国内における22県の特別教育センター (Special Education Center)⁽²⁾を通じてアンケート対象者に配布され、回答を得た。

(5) アンケート調査対象者の国内分布 (県別) について

2021年5月の研究の調査対象者は、タイ国内の22県に及ぶ。具体的な数は図1に示すとおりである。109名の対象者のうち、アンケートに回答したものは71名(65.1%)であった。2022年5月の本研究では、前回回答した71名を対象とし、全員から回答があった。しかし、22県のうち何県に分布しているかは不明である。

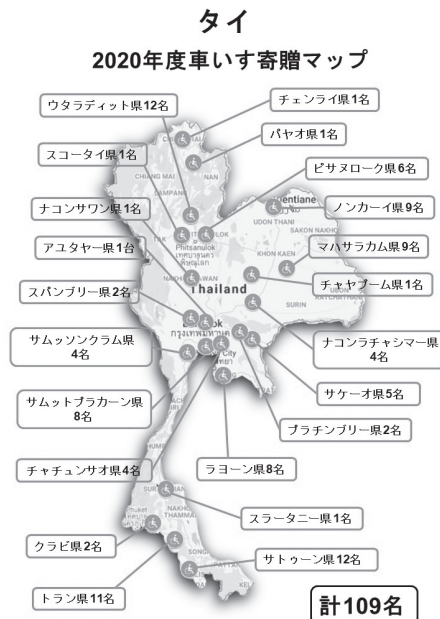


図1 2020年度タイ車いす寄贈マップ
(認定 NPO 法人アジア車いす交流センター提供)

(6) 倫理的配慮

本研究所のアンケート調査への参加は自由意志であり、不参加者は不利益を受けないこと、また個人情報厳重に保護することを調査対象者に説明し同意を得た。これは WAFCAT 事務局により、特別教育センターを通じて行われた。

3. 結果

本研究のアンケート調査は11項目から成り、40問で構成されている。すべての質問は5段階で回答する。

対象となる子どもの年齢は5歳から20歳で、男女比は不明である。車いすなど移動補助具を必要とする肢体不自由児で、脳性麻痺、筋ジストロフィー症を含む重度重複障がい児も含まれる。今回の調査では、障がい程度で回答を分類していない。

調査票にある11項目について測定年度別に比較した結果は以下の通りである。

表1 Pain Control (痛みのコントロール)

		まったく心配 ない	あまり心配 ない	普通	とても心配	極めて心配
1) 体の痛みや 不快感について 心配の程度	2021年5月	16.9% (12)	18.3% (13)	28.2% (20)	29.6% (21)	7.0% (5)
	2022年5月	11.3% (8)	16.9% (12)	31.0% (22)	28.2% (20)	12.7% (9)
		一度もない	ほとんどない	普通	よくある	常にある
2) 痛みの頻度	2021年5月	21.1% (15)	46.5% (33)	7.0% (5)	22.5% (16)	2.8% (2)
	2022年5月	11.3% (8)	40.8% (29)	16.9% (12)	29.6% (21)	1.4% (1)
		まったくない	あまりない	普通	とてもある	極めてある
3) 痛みや不快 さへの対処のむ ずかしさの程度	2021年5月	21.1% (15)	16.9% (12)	28.2% (20)	25.4% (18)	8.5% (6)
	2022年5月	12.7% (9)	16.9% (12)	36.6% (26)	31.0% (22)	2.8% (2)
		まったくない	あまりない	普通	とてもある	極めてある
4) 痛みに起因 する行動制限の 程度	2021年5月	18.3% (13)	19.7% (14)	14.1% (10)	29.6% (21)	18.3% (13)
	2022年5月	11.3% (8)	9.9% (7)	26.8% (19)	32.4% (23)	19.7% (14)

() は人数

表2 Self-Awareness (自己認識)

		極めて感じる	とても感じる	普通	あまり感じない	まったく感じない
5) 将来について楽観的に感じる程度	2021年5月	2.8% (2)	19.7% (14)	56.3% (40)	11.3% (8)	9.9% (7)
	2022年5月	2.8% (2)	18.3% (13)	47.9% (34)	23.9% (17)	7.0% (5)
		極めて感じる	とても感じる	普通	あまり感じない	まったく感じない
6) 日常生活で楽観的に感じる程度	2021年5月	4.2% (3)	21.1% (15)	50.7% (36)	16.9% (12)	7.0% (5)
	2022年5月	1.4% (1)	28.2% (20)	45.1% (32)	21.1% (15)	4.2% (3)
		一度もない	ほとんどない	普通	よくある	常にある
7) 不安、憂鬱などネガティブになる頻度	2021年5月	18.3% (13)	50.7% (36)	18.3% (13)	12.7% (9)	0.0% (0)
	2022年5月	11.3% (8)	52.1% (37)	25.4% (18)	9.9% (7)	1.4% (1)
		極めて感じる	とても感じる	普通	あまり感じない	まったく感じない
8) 自分に価値を感じる程度	2021年5月	21.1% (15)	45.1% (32)	26.8% (19)	7.0% (5)	0.0% (0)
	2022年5月	14.1% (10)	39.4% (28)	40.8% (29)	4.2% (3)	1.4% (1)
		極めてある	とてもある	普通	あまりない	まったくない
9) 自分に自信がある程度	2021年5月	4.2% (3)	19.7% (14)	39.4% (28)	29.6% (21)	7.0% (5)
	2022年5月	8.5% (6)	23.9% (17)	38.0% (27)	21.1% (15)	8.5% (6)
		まったく感じない	あまり感じない	普通	とても感じる	極めて感じる
10) 自分の容姿の一部が原因で不快に感じる程度	2021年5月	18.3% (13)	35.2% (25)	31.0% (22)	14.1% (10)	1.4% (1)
	2022年5月	12.7% (9)	32.4% (23)	29.6% (21)	14.1% (10)	11.3% (8)

() は人数

表3 Daily Activity (日常活動)

		まったく感じ ない	あまり感じ ない	普通	とても 感じる	極めて感じる
11) 普段の生 活で困難を感 じる程度	2021年5月	5.6% (4)	8.5% (6)	29.6% (21)	29.6% (21)	26.8% (19)
	2022年5月	2.8% (2)	14.1% (10)	15.5% (11)	42.3% (30)	25.4% (18)
<hr/>						
		非常に満足	満足	どちらで もない	不満足	非常に不満足
12) 日常活動 を行う能力に 対する満足度	2021年5月	12.7% (9)	22.5% (16)	35.2% (25)	21.1% (15)	8.5% (6)
	2022年5月	2.8% (2)	18.3% (13)	32.4% (23)	33.8% (24)	12.7% (9)
<hr/>						
		まったく必要 ない	あまり必要 ない	普通	とても必要	極めて必要
13) 日常生活 で機能するた めの薬の必要 度	2021年5月	9.9% (7)	18.3% (13)	18.3% (13)	29.6% (21)	23.9% (17)
	2022年5月	2.8% (2)	11.3% (8)	25.4% (18)	40.8% (29)	19.7% (14)
<hr/>						
		まったく必要 ない	あまり必要 ない	普通	とても必要	極めて必要
14) 日常生活 で機能するた めの治療の必 要度	2021年5月	7.0% (5)	16.9% (12)	19.7% (14)	28.2% (20)	28.2% (20)
	2022年5月	2.8% (2)	9.9% (7)	25.4% (18)	42.3% (30)	19.7% (14)

() は人数

表4 Medical/Social Service (医療・社会サービス)

		極めて容易	とても容易	普通	あまり容易 でない	全く容易 でない
15) 医療ケア を受けること が容易である 程度	2021年5月	8.5% (6)	35.2% (25)	35.2% (25)	15.5% (11)	5.6% (4)
	2022年5月	0.0% (0)	38.0% (27)	47.9% (34)	12.7% (9)	1.4% (1)
<hr/>						
		非常に満足	満足	どちらで もない	不満足	非常に不満足
16) 医療サー ビスへのアク セスの満足度	2021年5月	14.1% (10)	33.8% (24)	35.2% (25)	11.3% (8)	5.6% (4)
	2022年5月	0.0% (0)	23.9% (17)	43.7% (31)	31.0% (22)	1.4% (1)

		非常に満足	満足	どちらでもない	不満足	非常に不満足
17) 社会ケアサービスの満足度	2021年5月	8.5% (6)	26.8% (19)	43.7% (31)	12.7% (9)	8.5% (6)
	2022年5月	2.8% (2)	35.2% (25)	56.3% (40)	5.6% (4)	0.0% (0)

() は人数

表5 Environment (環境)

		極めて感じる	とても感じる	普通	あまり感じない	まったく感じない
18) 安心安全な環境に住んでいると感じる程度	2021年5月	7.0% (5)	50.7% (36)	32.4% (23)	7.0% (5)	2.8% (2)
	2022年5月	8.5% (6)	47.9% (34)	35.2% (25)	7.0% (5)	1.4% (1)
		極めて快適	とても快適	普通	あまり快適でない	全く快適でない
19) 住んでいる場所の快適さの程度	2021年5月	5.6% (4)	39.4% (28)	39.4% (28)	7.0% (5)	8.5% (6)
	2022年5月	1.4% (1)	39.4% (28)	45.1% (32)	12.7% (9)	1.4% (1)
		完全に合う	ほぼ合う	普通	あまり合わない	まったく合わない
20) 住居の質がニーズに合っている程度	2021年5月	7.0% (5)	33.8% (24)	42.3% (30)	7.0% (5)	9.9% (7)
	2022年5月	1.4% (1)	33.8% (24)	46.5% (33)	16.9% (12)	1.4% (1)

() は人数

表6 Finance (ファイナンス)

		まったくない	あまりない	普通	とても困難	極めて困難
21) 経済的に困っている程度	2021年5月	4.2% (3)	8.5% (6)	42.3% (30)	31.0% (22)	14.1% (10)
	2022年5月	2.8% (2)	7.0% (5)	39.4% (28)	35.2% (25)	15.5% (11)
		極めてある	とてもある	普通	あまりない	まったくない
22) ニーズを満たす十分なお金がある程度	2021年5月	7.0% (5)	11.3% (8)	36.6% (26)	35.2% (25)	9.9% (7)
	2022年5月	7.0% (5)	15.5% (11)	36.6% (26)	32.4% (23)	8.5% (6)

() は人数

表7 Mobility/Transportation (可動性・交通手段)

23) 移動(交通)に問題を抱えている程度		まったく問題ない	あまり問題ない	普通	とても問題	極めて問題
	2021年5月	15.5% (11)	2.8% (2)	22.5% (16)	39.4% (28)	19.7% (14)
	2022年5月	2.8% (2)	5.6% (4)	25.4% (18)	31.0% (22)	35.2% (25)
24) 上手く移動できる程度		とても上手	上手	どちらでもない	下手	とても下手
	2021年5月	11.3% (8)	18.3% (13)	35.2% (25)	25.4% (18)	9.9% (7)
	2022年5月	11.3% (8)	18.3% (13)	26.8% (19)	25.4% (18)	18.3% (13)
25) 移動の困難が生活を制限している程度		まったくない	あまりない	普通	とても制限	極めて制限
	2021年5月	2.8% (2)	9.9% (7)	28.2% (20)	40.8% (29)	18.3% (13)
	2022年5月	0.0% (0)	8.5% (6)	28.2% (20)	32.4% (23)	31.0% (22)
26) 移動の困難があなたを悩ませる程度		まったくない	あまりない	普通	とてもある	極めてある
	2021年5月	2.8% (2)	5.6% (4)	28.2% (20)	39.4% (28)	23.9% (17)
	2022年5月	1.4% (1)	5.6% (4)	25.4% (18)	35.2% (25)	32.4% (23)
27) 移動の困難が生き方に影響を及ぼす程度		まったくない	あまりない	普通	とてもある	極めてある
	2021年5月	8.5% (6)	7.0% (5)	19.7% (14)	38.0% (27)	26.8% (19)
	2022年5月	2.8% (2)	5.6% (4)	19.7% (14)	36.6% (26)	35.2% (25)
28) 動き回る能力に対する満足度		非常に満足	満足	どちらでもない	不満足	非常に不満足
	2021年5月	7.0% (5)	21.1% (15)	35.2% (25)	26.8% (19)	12.7% (9)
	2022年5月	9.9% (7)	11.3% (8)	36.6% (26)	32.4% (23)	9.9% (7)
29) 十分な交通手段が確保できている程度		完全にある	たいていある	普通	あまりない	まったくない
	2021年5月	5.6% (4)	18.3% (13)	42.3% (30)	23.9% (17)	4.2% (3)
	2022年5月	5.6% (4)	22.5% (16)	42.3% (30)	29.6% (21)	0.0% (0)

() は人数

表 8 Personal Relationship (人間関係)

		完全にある	たいていある	普通	あまりない	まったくない
30) 必要な支援を他者から受けている程度						
	2021年5月	4.2% (3)	28.2% (20)	31.0% (22)	23.9% (17)	12.7% (9)
	2022年5月	15.5% (11)	49.3% (35)	28.2% (20)	7.0% (5)	0.0% (0)
31) 必要なとき、友人を頼れる程度		完全に頼れる	たいてい頼れる	普通	あまり頼れない	まったく頼れない
	2021年5月	4.2% (3)	14.1% (10)	32.4% (23)	39.4% (28)	9.9% (7)
	2022年5月	2.8% (2)	32.4% (23)	21.1% (15)	33.8% (24)	9.9% (7)
32) 家族のサポートに対する満足度		非常に満足	満足	どちらでもない	不満足	非常に不満足
	2021年5月	16.9% (12)	39.4% (28)	28.2% (20)	11.3% (8)	7.0% (5)
	2022年5月	22.5% (16)	33.8% (24)	33.8% (24)	9.9% (7)	0.0% (0)
33) 他者に奉仕し支える能力に対する満足度		非常に満足	満足	どちらでもない	不満足	非常に不満足
	2021年5月	5.6% (4)	28.2% (20)	46.5% (33)	12.7% (9)	7.0% (5)
	2022年5月	7.0% (5)	29.6% (21)	31.0% (22)	28.2% (20)	4.2% (3)

() は人数

表 9 Leisure (余暇)

		完全にある	たいていある	普通	あまりない	まったくない
34) 余暇活動の程度						
	2021年5月	2.8% (2)	12.7% (9)	36.6% (26)	33.8% (24)	14.1% (10)
	2022年5月	4.2% (3)	28.2% (20)	29.6% (21)	19.7% (14)	18.3% (13)
35) リラックスして楽しめる程度		完全にできる	たいていできる	普通	あまりできない	まったくできない
	2021年5月	4.2% (3)	14.1% (10)	40.8% (29)	29.6% (21)	11.3% (8)
	2022年5月	7.0% (5)	36.6% (26)	19.7% (14)	22.5% (16)	14.1% (10)

() は人数

表10 Information/Learning (情報・学習)

		完全にある	たいていある	普通	あまりない	まったくない
36) 必要な情報を得る機会がある程度	2021年5月	4.2% (3)	11.3% (8)	39.4% (28)	28.2% (20)	16.9% (12)
	2022年5月	1.4% (1)	11.3% (8)	38.0% (27)	32.4% (23)	16.9% (12)
37) 新しいスキルを習得する機会の満足度		非常に満足	満足	どちらでもない	不満足	非常に不満足
	2021年5月	8.5% (6)	25.4% (18)	31.0% (22)	23.9% (17)	11.3% (8)
	2022年5月	2.8% (2)	28.2% (20)	36.6% (26)	22.5% (16)	9.9% (7)
38) 新しい情報を学ぶ機会の満足度		非常に満足	満足	どちらでもない	不満足	非常に不満足
	2021年5月	7.0% (5)	26.8% (19)	32.4% (23)	26.8% (19)	7.0% (5)
	2022年5月	1.4% (1)	23.9% (17)	38.0% (27)	21.1% (15)	15.5% (11)

() は人数

表11 Work/Study (就労・就学)

仕事／勉強には、ボランティア活動、フルタイムの勉強、家庭の世話、子供の世話、有給の仕事、または無給の仕事が含まれる。つまり、仕事／勉強は、一日の時間と労力の大部分を占める活動を意味する。

		完全にできる	たいていできる	普通	あまりできない	まったくできない
39) 仕事や勉強ができる程度	2021年5月	0.0% (0)	5.6% (4)	32.4% (23)	26.9% (19)	35.2% (25)
	2022年5月	1.4% (1)	19.7% (14)	26.8% (19)	32.4% (23)	19.7% (14)
40) 仕事や勉強の能力に対する満足度		非常に満足	満足	どちらでもない	不満足	非常に不満足
	2021年5月	0.0% (0)	7.0% (5)	32.4% (23)	31.0% (22)	29.6% (21)
	2022年5月	1.4% (1)	21.1% (15)	31.0% (22)	26.8% (19)	19.7% (14)

() は人数

調査した11項目中、年度比較により改善傾向が見られたのは3項目に留まった。残りの8項目では、ほぼ変化がないか、些少ではあるがどちらかといえば悪化傾向が見られた。ここでは、改善傾向が見られた3項目と、とくに悪化傾向が顕著であった3つの項目に着目した。

年度比較により改善傾向が見られたおもな項目の1つ目は、項目8) 人間関係 (Personal

Relationship) である。

本調査項目では、「他者に奉仕し支える能力に対する満足度」を除くすべての質問で改善傾向が見られた。とくに、「必要な支援を他者から受けている程度」では、完全に・たいていあると回答した障がい児が合わせて32.4%から64.8%に増加し、他者からの支援をまったく受けていないという回答数が12.7%から0.0%に減るなど改善傾向が見られた。前回の調査ではとくに家族のサポートに対する満足度が高くその傾向は変わらなかったが、加えて本調査では他者や友人からのサポートの程度で改善傾向が見られた。この理由として、WAFCAT による車いすの提供や提供後のフォローアップに対して、それを他者あるいは友人からのサポートとして捉え、回答にその意識の持ち方が差となって現れた可能性もあると考えられる。

2つ目は、項目9) 余暇 (Leisure) である。

本調査項目では、すべての質問で改善傾向が見られた。まず、「余暇活動の程度」が完全にありと回答した障がい児が2.8%から4.2%に増加、たいていありと回答した障がい児が12.7%から28.2%に増加した。次に、「リラックスして楽しめる程度」も完全に・たいていできるという回答が合わせて18.3%から43.6%へ増加した。しかし依然として約半数の回答者が余暇活動やリラックスして楽しめる程度があまりない・まったくないと回答している。このように余暇活動に対してネガティブな回答をした人たちに対しては、なぜその頻度が少ないのか、その理由を探ることが必要だと考えられる。余暇活動に参加できない原因が、他のアンケート項目とリンクする可能性も十分に有り得る。よって、アンケート調査項目を軸としながらも、それらの回答のバックグラウンドにある生活環境や個人の健康状態について聞き取り調査をすることが重要だと思われる。

3つ目は、項目11) 就労・就学 (Work/Study) である。

本調査項目では、すべての質問で改善傾向が見られた。まず、「仕事や勉強ができる程度」について、完全にできる・たいていできるという回答が合わせて5.6%から21.1%と約4倍に増加し、あまりできない・まったくできないという回答が合わせて62.1%から52.1%に若干減少している。また、「仕事や勉強の能力に対する満足度」では、満足・非常に満足という回答が7.0%から22.5%と約3倍に増加し、不満足・非常に不満足という回答者は合わせて60.6%から46.5%と過半数以下に減少した。しかし依然として約半数の回答者が就労や就学ができていないという現状から、車いすの寄贈だけでは解決できない多様な要因があることが予想できる。就労、就学については、身体に適した車いすを使用することが現状の改善に繋がったかどうかを直接聞き取ることで実態が明らかになる可能性があると予測できる。

次に年度比較により悪化傾向が見られたおもな項目の1つ目は、項目1) 痛みのコントロール (Pain Control) である。

本調査項目では、全体的に悪化傾向が見られた。まず、「体の痛みや不快さについて心配の程度」では、とても心配・極めて心配という回答者が合わせて36.6%から40.9%に微増し、まったく心配ない・あまり心配ないという回答者は35.2%から28.2%に減少した。また、「痛みの頻度」では、一度もない・ほとんどないが合わせて67.6%から52.1%に減少し、よくある・常

にあるが合わせて25.3%から30.0%に増加した。

一方で、「痛みや不快さへの対処のむずかしさ」では、まったくむずかしくない・あまりむずかしくないという回答が合わせて38.0%から29.6%に若干改善している。さらに、「痛みに起因する行動制限の程度」でも、まったくない・あまりないという回答が合わせて38.0%から21.2%に改善している。以上の結果から、痛みや不快さ自体はあまり改善しなかったが、それらに対する対処が比較的容易にできるようになり、それに伴って痛みに起因する行動制限も些少なから減ったことが伺える。しかし、全体的に痛みに対するネガティブな回答が増加している理由が、本アンケートの回答から考察するには内容が不十分であることがわかった。痛みのコントロールや痛みへの対応は、個々人への対応の中でも優先順位が高いものと言える。この回答が結果は、調査方法を再考して、個々のケースを丁寧に調べていくことが必要だと考える。

2つ目は、項目3) 日常活動 (Daily Activity) である。

本調査項目では、すべての質問項目で悪化傾向が見られた。まず、「普段の生活で困難を感じる程度」では、とても感じる・極めて感じると回答した障がい児が合わせて63.6%から71.3%に増加した。「日常活動を行う能力に対する満足度」も、不満足・非常に不満足が合わせて29.6%から46.5%に増加し、満足・非常に満足が合わせて35.2%から21.1%に減少しており、どちらかといえば不満足がどちらかといえば満足を上回った。さらに、「日常生活で機能するための薬の必要度」では、とても必要・極めて必要が合わせて53.5%から60.5%、「日常生活で機能するための治療の必要度」では、とても必要・極めて必要が合わせて56.4%から62.0%に微増した。薬や治療など医療へのニーズが増えていることから、障がい児の健康状態の悪化が日常生活全般の困難や満足度に影響していることも考えられる。本項目と痛みのコントロールとの関係性なども今後はリンクさせて調査することも必要である。

3つ目は、項目7) 可動性・交通手段 (Mobility/Transportation) である。

本調査項目では、すべての質問項目で悪化傾向が見られた。とくに悪化傾向が顕著であった「移動 (交通) に問題を抱えている程度」では、とても・非常に問題を抱えていると回答した障がい児が合わせて59.1%から66.2%に増加し、まったく・あまり問題を抱えていない障がい児が合わせて18.3%から8.4%に減少した。また、「移動の困難が生き方に影響を及ぼす程度」では、とてもある・極めてあると回答した障がい児が合わせて64.8%から71.8%に増加し、まったくない・あまりないという回答が合わせて15.5%から8.4%と全体の1割以下まで減少した。回答者の約7割が支援の後でも移動の困難により悩まされており、しかも悪化傾向にある実態が明らかになった。

4. 考察

今回の調査では、体に合わせてフィッティングして提供した車いすを対象の障がい児が使い続けた結果、もっとも改善することが期待された「痛みのコントロール (Pain Control)」、「日常活動 (Daily Activity)」、「可動性・交通手段 (Mobility/Transportation)」という3項目におい

て悪化傾向が見られた。体の痛みや不快さに関する心配の程度や痛みの頻度が増え、日常生活で薬や治療など医療サービスの必要性が増えた一方で、医療サービスへのアクセスに非常に満足という回答が0.0%になるなど、全体的に満足度は下がっている。つまり、車いすの使用によって対象の障がい児の健康状態や医療サービスへのアクセスが全般的に向上するという成果は本調査からは得られなかった。とくに身体の痛みや不快さの軽減は、生活する中で優先順位が高いと思われるが、全体的に痛みに対するネガティブな回答が増加している理由をどのように考えればよいのか。新たに車いすを使用し始めたことに起因する痛みであれば、調整の技術や不具合を見直さなければならない。痛みを緩和するためのリハビリテーションや医薬品が不足しているのであれば、適切な医療サービス支援と繋げることも有効な改善策になるだろう。痛みや不快さの理由、日常活動や移動の制限の因果関係について追加調査が必要である。さらに、WAFCA は移動の自由を目的に掲げて車いすを支援しているにも関わらず、依然としておよそ3人に2人が移動に問題を抱え、移動の困難が生き方に影響を及ぼしている状況について、1年経過しても大きな改善傾向が見られないことがわかった。このことは、移動（交通）に問題を抱えている程度が「極めて問題」に限ってみると19.4%から35.2%に増加したことからも明らかである。この調査では、彼らの車いすの使用頻度や使用場所が目的に合っているか明らかにできないが、車いすそのものは外出を促し（長距離）移動の困難を解決するに至っていない可能性がある。なぜ車いす使用が移動の自由の向上に繋がっていないのか、次回以降の調査で明らかにしたい。

一方、改善が見られた項目として、社会ケアサービスへの満足度が向上し、家族以外の他者から必要な支援を受けているという回答が増えた。このことから、必要な支援をまったく受けられず社会の中で取り残されているわけではなく、1台の車いす支援をきっかけにWAFCAや特別教育センターを含めて地域で何らかの支援を受けていることを障がい児本人や家族が認識し、彼らの心の支えとなりポジティブな変化をもたらしていることが伺える。さらに、割合としては依然として少数派ではあるものの、余暇活動や就労・就学の項目で改善傾向が見られたことは意義深い。中でも、「リラックスして楽しめる程度」の改善傾向が顕著であったが、これは車いすに座ってテレビを見たり、ラジオを聴いたり、介助者と一緒に自宅の周辺を散歩して外気に触れ、近所の人々とコミュニケーションを取れるようになったことで気持ちの上でリラックスすることができるようになったことなどが想像される。全体としては健康や移動の困難を抱えながらも、リラックスして楽しめることが増え、勉強することができるようになった障がい児の好事例をさらに詳しく調査し、成功事例の傾向などから今後のプロジェクトの改善と継続的支援の提案に繋げることを期待したい。

5. まとめおよび今後の課題

本研究では、障がい児が車いすを使い続けた結果、以前より健康になり、移動の自由を得て外出や余暇、就学や就労の機会が増加してモビリティと QOL が向上するという仮説のもと、

彼らの約1年後の変化を調査した。アンケート調査の結果、痛みの軽減や移動の困難の解消など、車いすを使うことのメリットとして期待していた重要な項目で目立った改善が見られなかった。一方で、就労・就学状況においては多少の改善が見られた。このようにプロジェクトがもたらした変化の全体的な傾向を大まかに把握することで、プロジェクトの一部の成功事例が被受益者全員にもたらされているわけではないという現状を明らかにすることはできた。

しかし、今回のアンケート調査から得られた情報だけでは各項目の相関関係や、障がい児一人ひとりの異なる変化とその要因を把握することができない。よって、プロジェクトの改善に本アンケートを役立たせるとするならば、各アンケート項目で相関関係が予測される項目を合わせた、新たなアンケート内容を考案するためのベースとして活用することが良いのではないかと考える。体の痛みや不快感があまり軽減しなかった要因として、車いすの調整に不具合があったのか、車いす以外に痛みを和らげる運動やリハビリテーションの支援が欠けていたのかといった入り口からより掘り下げた質問内容を、「痛みのコントロール」というベースの質問項目から導き出せるようにする。すなわち各項目の結果との予測できる関係性を1つの質問の中に流れを意識して組み入れ、丁寧な聞き取り調査として結果を蓄積していくことが望ましいのではないかと考える。この場合、回答の蓄積としてDX（デジタルトランスフォーメーション）化を積極的活用することも視野に入れたい。それによって、個々人の経年変化も追跡できると考えられる。

今回の調査は、対象となった子どもたちの1年後の変化について、WHO-QOL100^[7]から移動障がい及び子どもを対象にした関連ある内容11項目40問を抽出してアンケート調査を実施した。それらの結果は、全て1年後の変化の度合いを数値化して視覚化したものである。しかし、1年間という期間に、彼らが寄贈された車いすをどのくらい、さらにはどのように使用し、それらが子どもたちをサポートする人も含めて、どのような影響を及ぼしたかを明らかにすることが重要だとわかった。その結果によって、評価軸についてディスカッションできる素地ができ、目標値も定めていけるのではないかと考えられる。

つまり、障がい児のモビリティとQOLを改善するためには、プロジェクト全体のインパクトを把握するだけでなく、障がい児本人、家族、地域、学校など本人を取り巻く環境も含めて結果に到るまでのプロセスに着目した調査を実施すること、そして何を評価するかを明確にして支援対象グループの実態を明らかにしていくことが重要である。

注

- (1) Guidelines on the Provision of Manual Wheelchairs in Less Resourced Settings (WHO 2008) で提唱された車いすサービス提供のステップ。
 1. Referral and Appointment：既存の社会サービスやネットワーク、政府、非政府団体やボランティア等を通じて招待を受け申請する、またアセスメントのための予約をする。
 2. Assessment：ユーザー個人のライフスタイル、職業、住環境、身体状態等についてアセスメントする。

3. Prescription (Selection) : アセスメントで得た情報をもとに最適な車いすのタイプ、サイズ、必要な調整や付属品を処方し選択する。
 4. Funding and Ordering : 車いすの在庫を確認し、必要に応じて資金調達や注文を行う。
 5. Product Preparation : 1 回目のフィッティングに備えて車いすの組立、調整等、事前に準備する。
 6. Fitting : ユーザーが実際に車いすに座ってフィッティングし、必要な再調整を行う。
 7. User Training : ユーザーと介助者に対し、安全で効果的に車いすを使用するためのトレーニングを行う。
 8. Follow-up, Maintenance and Repairs : 提供後、定期的にフォローアップすることでさらに必要なトレーニングや支援のニーズを得ることができる。また、技術的な問題があればメンテナンス、修理を行う。このステップはできる限りコミュニティーレベルで行うことが望ましい。
- (2) 特別教育センター (Special Education Center) は、地区ごとに13か所、県単位で64か所設置されて教育省が管轄している。対象年齢は乳幼児から18歳で、センター内で障がい児の学ぶ場を提供するほか、各ディストリクトに分校や職員を配置し、家庭を訪問して療育・教育を提供している。WAFCAT は寄贈するすべての車いすのニーズ調査や申請に際し、特別教育センターの職員 (理学療法士) と連携して行っている。

引用参考文献

- [1] マーク・J・エプスタイン (著), クリスティ・ユーザス (著), 鶴尾雅隆 (監修), 鴨崎貴泰 (監修), 松本裕 (翻訳) (2015) 「社会的インパクトとは何か—社会変革のための投資・評価・事業戦略ガイド—」 英治出版 (2015/10/14) p. 164
- [2] 斎藤文彦 (2005) 「国際開発論」 日本評論社 p. 102
- [3] NPO 法人ユアス (2003) 「国際協力プロジェクト評価」 国際開発ジャーナル社
- [4] アジア車いす交流センターホームページ
<https://wafca.jp/> 2022年12月9日
- [5] WHOQOL: Measuring Quality of Life
<https://www.who.int/tools/whoqol> 2022年12月9日
- [6] 障がい児のモビリティと QOL 改善に向けた国際協力の実践
- [7] Field Trial WHOQOL-100 February 1995
https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/77084/WHO_HIS_HSI_Rev.2012.01_eng.pdf 2022年12月9日

謝辞

本調査は、WAFCAT (アジア車いす交流センター・タイランド) のスタッフの皆様による多大なご協力の下で実施することができました。ご協力いただいたスタッフの皆様へ感謝申し上げます。

(受理日 2023年1月5日)